

金沢大学 神経内科

年 報

第 10 号

2009 年 1 月～2009 年 12 月



金沢大学大学院 医学系研究科 脳医科学専攻
脳病態学講座 脳老化・神経病態学(神経内科学)

<http://web.kanazawa-u.ac.jp/~med19/>

目 次

年報第10号の刊行にあたって	1
[1] 出来事・人事異動	3
[2] 診 療	13
[3] 症例検討会・各種カンファレンス	18
[4] 教育活動	26
[5] 業 績	32
(1) 論文・著書	32
(2) 学会・研究会等	41
(3) その他の対外活動（委員会、取材など）	59
(4) 学会、研究会等の主催	62
[6] 研究助成	64
[7] 学位・専門医等	66
[8] 特 許	67
[9] 関連病院の施設紹介	68
[10] 大学在籍者名簿	75
編集後記	77

年報第10号の刊行にあたって

2009年（平成21年）の教室の記録を年報第10号としてまとめました。教室の診療、教育、研究活動は学内の方々、関連施設の方々、国内外の共同研究者の方々、「なかじまプロジェクト」（石川県七尾市中島町における認知症早期発見および予防研究）関係の地域や行政の方々、厚生労働省・アミロイドーシス調査研究班、同・クロイツフェルト・ヤコブ病サーベイランス委員会、精神神経科学振興財団・レビー小体型認知症診断研究プロジェクトほかの研究班・委員会活動等に関わる多くの方々の支援を受けております。心より感謝申し上げます。

私は2000年1月1日に当教室に赴任いたしました。瞬く間に10年がたち、2000年の記録を第1号として発刊した年報も10号目となりました。この場をお借りしまして、この10年間の御指導、御鞭撻に厚く御礼申し上げます。

2009年、国内では、民主党の衆院選圧勝により政権が交代し鳩山政権が誕生しました。国外ではオバマ米大統領が就任し「核なき世界」演説で未来への希望を込めノーベル平和賞を受賞しましたが、一方でアフガンの治安悪化に対し米軍が増派されました。その他では、わが国における裁判員裁判の開始、新型インフルエンザの世界的流行、世界的な景気の低迷などがありました。

新政権が実施した「事業仕分け」は私達の研究にも直結するものでした。これは、歳出の「無駄」を省くという観点から、与党議員と民間有識者らが「仕分け人」となり、来年度予算要求に盛り込まれた事業を質疑、討論して「廃止」「予算削減」「見直し」などと判定するもので、税金の使われ方を決める過程がメディアにも報道されたことから、世間からは概ね好評をもって迎えられました。この中で、私達の「なかじまプロジェクト」を支援して下さっている文部科学省の知的クラスター創成事業（現在継続中）が「廃止」と判定され、不況、国の税収減、それに伴う「縮減」政策が、研究事業をも直撃していることを実感いたしました。世界を先導する研究の推進が、明快に「無駄」と断じられたことには驚きました。こうした低迷する時代にこそ、20年、50年、さらにその先を視野にいたしたグランドプラン、百年の大計をたてることが求められましょう。ちなみに、「廃止」と判定された私達の当該事業の予算は最終的には事業を再編成しながら実質的に「縮減」になるとのご連絡をいただきました。私達は今後も、国、地方自治体ほかのご支援をいただきながら「なかじまプロジェクト」を推進し、最終的にアルツハイマー病が予防できることを実証することをめざしております。その目標を達成すべく今後も最大限の努力を続けます。

2009年の教室のトピックスの1つは、新外来棟オープンでした。神経内科の新しい外来は新外来棟2Fにあり、東病棟2Fの神経内科病棟に近接しています。研究棟2Fにある神経内科医局・研究室から、“空中回廊”(2Fレベルの渡り廊下)を通過して病棟へ、そして外来へと便利な動線になりました。この10年間で、大学病院の新築等に伴い、神経内科は、医局や研究室は2回、病棟は2回、外来は1回引っ越しましたが、これでおそらく当分の間、移転はないものと思われま

す。最近の教室の活動の様子は、この年報のさまざまな所に現れているものと思います。1つの客観的な指標として、業績欄にある英文論文30数編(総説を除く)をみてみました。論文の性格では、症例報告(少数例の報告を含む)が40-50%、多数例を解析した論文(疫学的研究、血液や髄液サンプルを用いた研究を含む)が30-40%、実験的な研究論文が約20%を占めていました。一方、疾患別にみると、認知症・アミロイド関連が約20-30%、神経免疫が約10%。プリオン病が約10%で、残り約50%は脳血管障害や末梢神経障害などさまざまな神経疾患が含まれていました。病棟医を中心とした若い人達が、人手不足に負けずに活発に症例研究をしていること、認知症や免疫性神経疾患などの特徴的な臨床活動に関連した研究が行われている(一部に基礎研究を含む)ことがわかります。

近年、わが国では、若手医師の大学離れの傾向に関連して、大学、特に地方大学から出される臨床論文の数が激減していることが問題になっております。これは高いレベルの診療、研究、教育を担うことが求められている大学/大学病院にとってまさに危機的状況です。私達は、臨床報告を大切にするという姿勢を今後も守っていきたいと考えております。10年、20年以上先の未来に飛躍をもたらすブレークスルーの鍵は、現在流行中の研究にではなく、必ずベッドサイドにあるはずだからです。私達は、そこから出発して、内外の研究者の御支援をいただきながら質の高い研究を成し遂げ、患者さんに、そして世界に貢献したいと考えております。

2010年からの新しい10年が始まります。この年報第10号を皆様方に御高覧いただき、今後も一層の御指導を賜わりますことができましたら誠に幸いに存じます。

2010年3月

山田正仁

[1] 出来事・人事異動

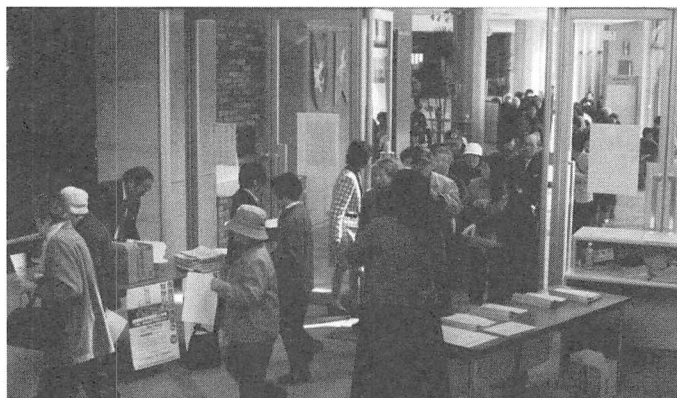
(1) 2009年医局の出来事

2009年2月21-22日 医局スキーツアー (ほおのき平スキー場/平湯温泉、岐阜)

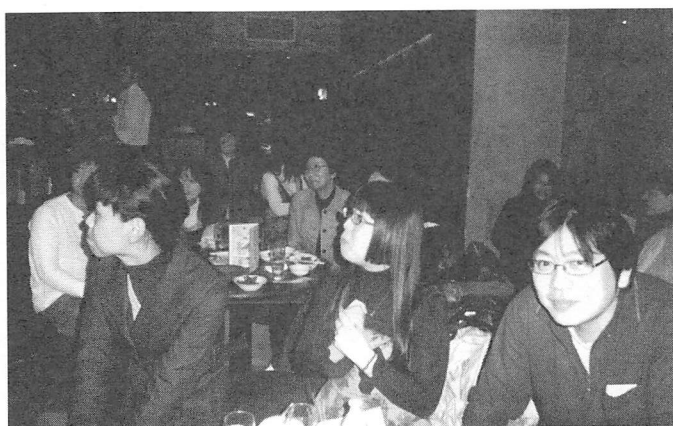


2009年3月14日 市民公開講座 in なかじま「認知症の早期発見と予防～いま、あなたにできること～」を開催 (場所：能登演劇堂)
(p62参照)

文部科学省・知的クラスター創成事業「石川ハイテク・センシング・クラスター」・早期認知症診断支援システム及び認知症予防プロトコルの開発研究「なかじまプロジェクト (脳健診及び認知症予防介入プログラム)」



2009年3月24日 医局送別会 (居乃一 BAN、金沢)



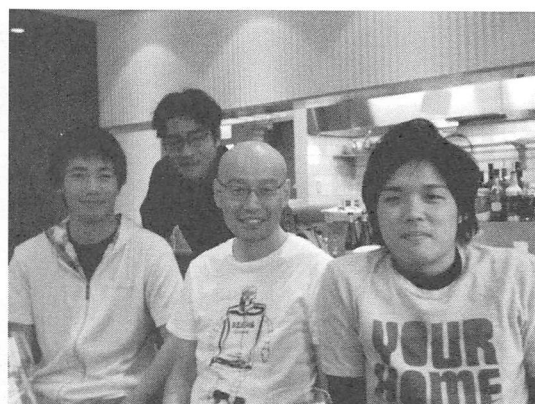
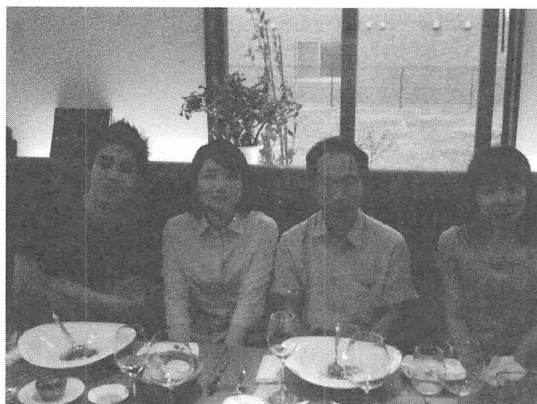
2009年4月21日 新人歓迎会 (Partir、金沢)



2009年5月19日 金沢大学神経内科同門会 (francesca、仙台)



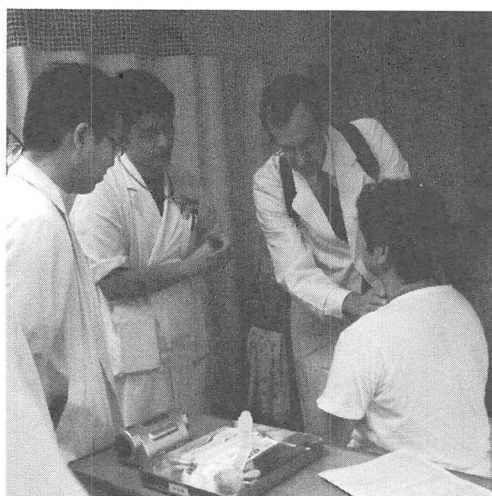
2009年6月22日 金沢大学神経内科医局説明会 (Amoretto、金沢)



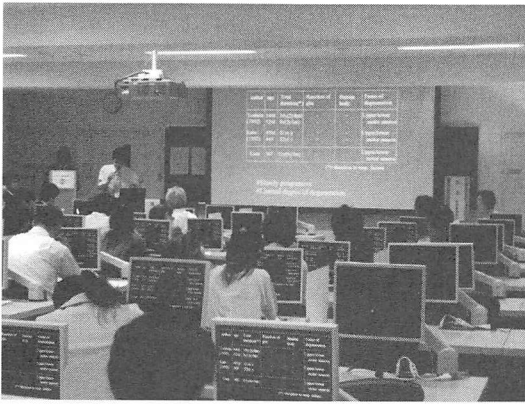
2009年7月18-19日 第5回金沢神経内科アカデミーを開催 (p29参照)



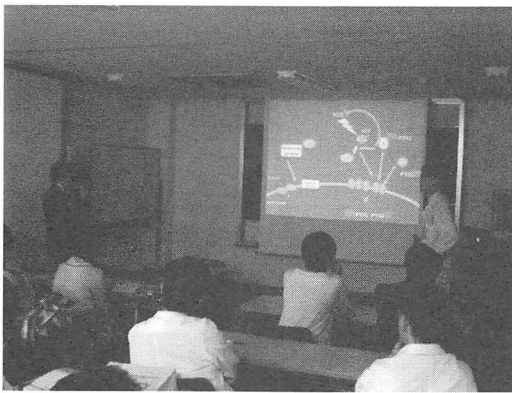
2009年8月11日 Robert P. Friedland 先生 (Louisville 大学神経内科教授)、
金沢大学神経内科訪問。当科病棟回診、当科カンファレンスにゲストとして参加していただきました。



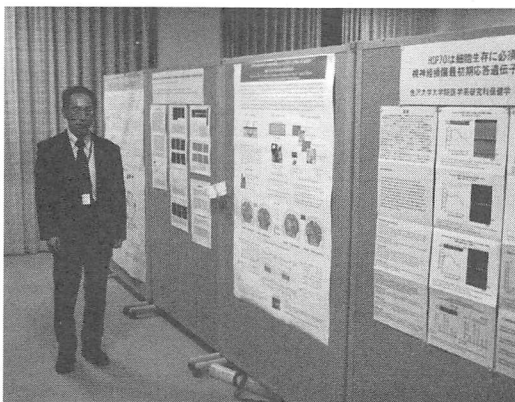
2009年10月3日 第1回日本神経病理学会 東海北陸地方会（金沢）



2009年10月13日 第16回ニューロサイエンスセミナー
（京都大学教授 垣塚彰先生）



2009年11月6日 金沢大学創基150年記念「講演会・シンポジウム」
シリーズ第2回「社会性認識」学際脳科学シンポジウム
（金沢）



2009年12月12日 金沢大学神経内科同門会・学術集会/総会（9ページ参照）

2009年12月22日 医局忘年会（茜どき、金沢）



<2009年医局集合写真>

(2) 大学人事異動

2009年4月

<転入>

- 小野 賢二郎：UCLAより帰国し助教に復職
小松 潤 史：浜松医科大学附属病院前期研修医から医員（後期研修医）へ
島 啓 介：国立病院機構医王病院より医員へ
坂井 健 二：能登総合病院より医員へ
古川 裕：福井県立病院より医員へ

<転出・異動>

- 浜口 毅：金沢大学附属病院助教を退職しドイツ Tübingen 大学へ留学
浜口 歩：金沢大学よりドイツへ
森永 章 義：金沢大学より国立病院機構医王病院へ
野崎 一 朗：金沢大学より能登総合病院へ
能登 大 介：金沢大学より国立精神・神経センターへ
室石 豊 輝：金沢大学より福井県立病院へ
高橋 良 一：金沢大学より福井県立病院へ

(3) 2009年 金沢大学神経内科同門会学術集会／総会

日 時 12月12日(土)

場 所 金沢都ホテル

学術集会

I Images in Neurology

座長 柳 瀬 大 亮

- 1) 「多発脳病変を認めたマタニティ・ブルー女性の1例」

石川県立中央病院 山 口 和 由

- 2) 「約1年半の経過でけいれん発作を繰り返し緩徐に認知機能低下を来たした59歳女性」

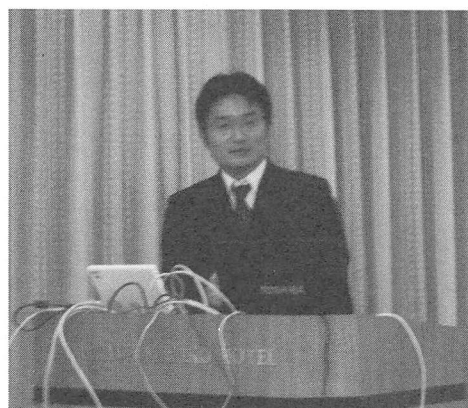
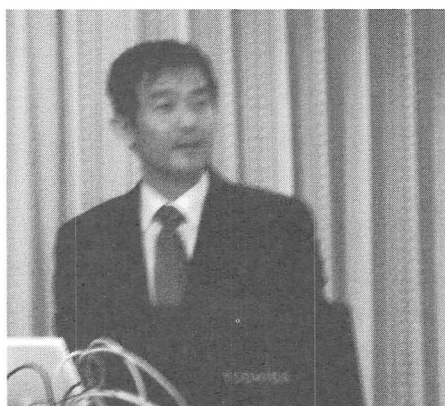
福井県立病院 高 橋 良 一

- 3) 「MRI上、馬尾、神経根主体の病変を呈した歩行障害の1例」

富山市民病院 町 谷 知 彦

- 4) 「頭痛嘔吐の中年男性の1例」

金沢医療センター 坂 尻 頭 一

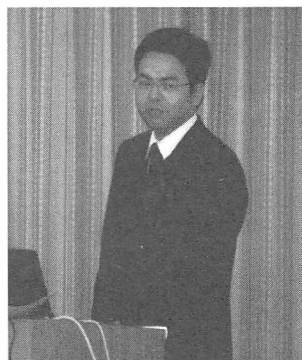


II 特別講演

座長 松本 泰子

「神経内科医がアルツハイマー病基礎研究に挑んだ2年 ～数多くの失敗を経験して」

金沢大学附属病院 小野 賢二郎



III 医王病院 CPC から

座長 新田 永俊

1) 「構音障害、失書が特徴的なパーキンソン症候群の1例」

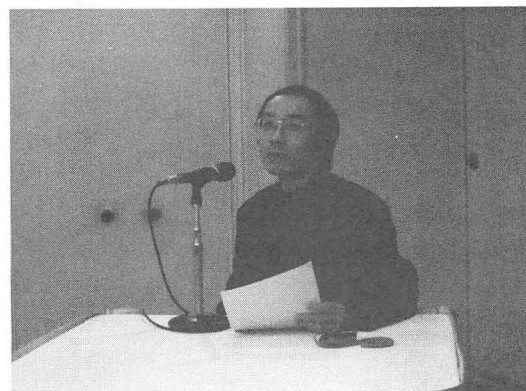
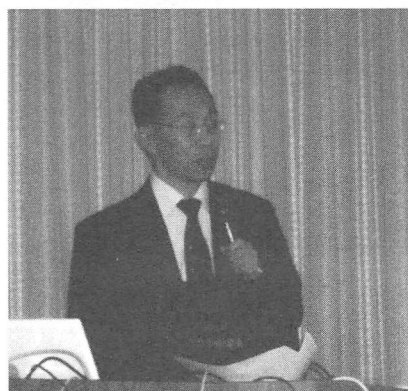
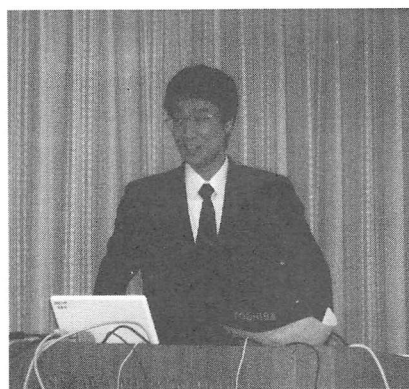
医王病院 本崎 裕子

2) 「全経過3年で易転倒性を初発症状とした76歳男性の1例」

金沢大学附属病院 坂井 健二

3) 「Parkinson 病と進行性核上性麻痺の臨床診断が揺れたパーキンソニズムの1例」

金沢大学附属病院 岩佐 和夫



IV 表彰

高 守 正 治 同門会会長

1) 第3回金沢大学神経内科同門会高守賞

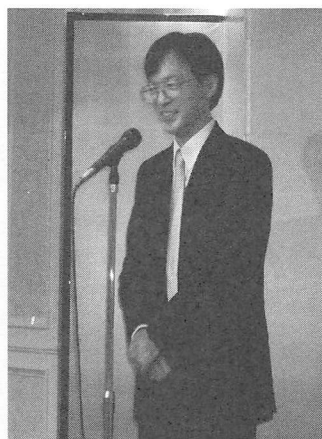
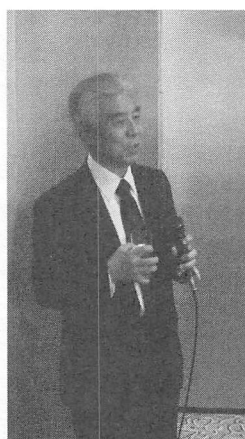
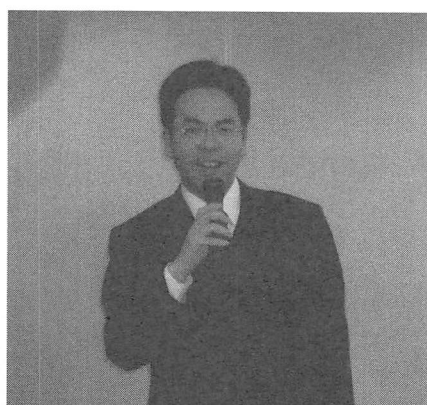
金沢大学附属病院 小 野 賢二郎

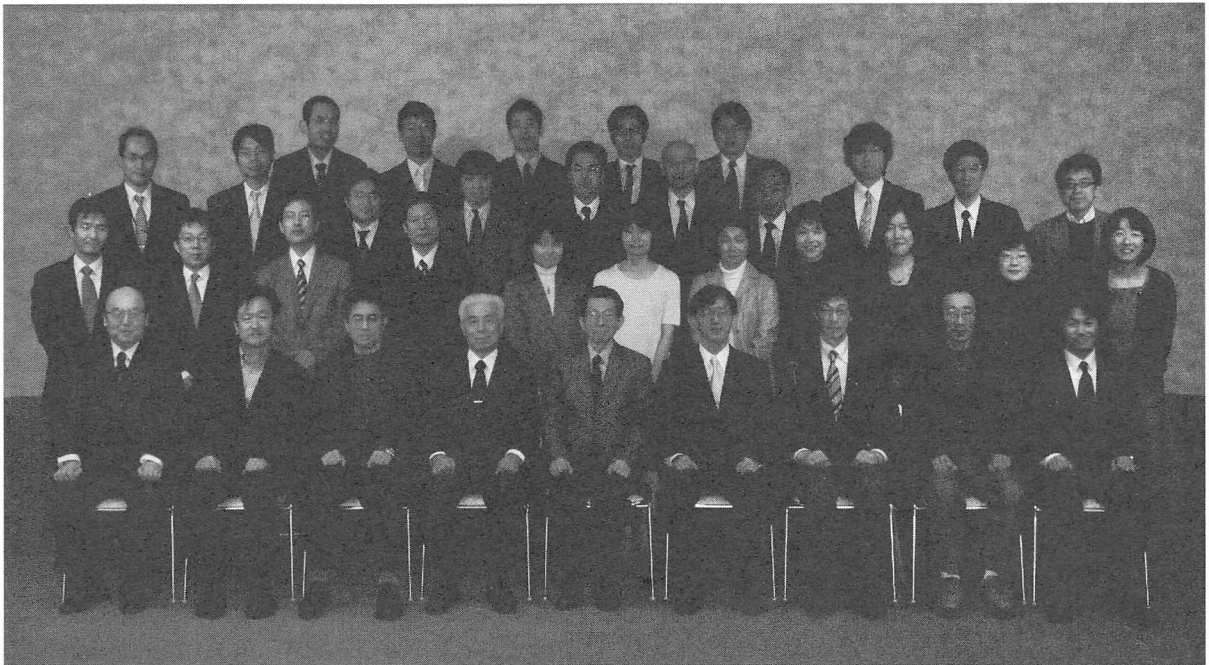
・ Ono K, *et al.* Effects Of Grape Seed-derived Polyphenols On Amyloid Beta-protein Self-assembly And Cytotoxicity. *J Biol Chem* 283:32176-32187, 2008.

2) 第3回金沢大学神経内科同門会奨励賞

恵寿総合病院 佐村木 美 晴

・ Samuraki M, *et al.* A successfully treated adult patient with L-2-hydroxyglutaric aciduria. *Neurology* 70:1051-1052, 2008.





金沢大学神経内科同門会集合写真（2009年12月12日）

[2] 診 療

(1) 外来実績

今年度の外来業務最大のトピックは、何といたっても2009年5月からの新外来棟での診療開始に尽きます。新体制開始に当たり、当初はどれだけ現場が混乱するのか予測不能で、色んなシミュレーションをしつつ、戦々恐々とした中でのスタートでした。しかしながら、確かに多少の混乱はありましたが、案ずるより産むが易しで、今のところ順調に経過しているように思います。診察室は以前に比べてかなり広々としており、医師1人で様々な外来診療業務を行うのは、広すぎてなかなか快適な空間となっています。あとはその広い診察室に、医師を助けて下さるメディカルスタッフも配置していただけると最高なのですが、これは今後の課題です。

当初は病院全科完全予約制を実行する予定とのことで、当日急に受診される患者様の扱いも大きな問題になっていました。これに関しては、当面は救急部医師で対応していただき、急がない症例は後日改めて当科初診していただく、という方法で対応できています。このことに関しても、当院救急部先生方のご協力に深謝いたします。また、完全予約制継続のため、他院からご紹介いただく先生方には、引き続きお手数をお掛けしますが、何卒ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご多忙の中大学病院の外来診療をお手伝い頂いた小竹先生、高橋先生、丸田先生、篠原先生には、重ねてここに深謝いたします。

(外来医長 柳瀬 大亮)

表 外来患者数 (2009年)

月	医 事 課 集 計*				神 経 内 科 集 計			
	患者数計 (人)	再診	初診	入 院 中 他科受診	初 診			
		患者数 (人)	患者数 (人)	患者数 (人)	初診患者数 (人)	院内紹介 (人)	院外紹介 (人)	紹介状なし (人)
1	591	534	20	37	49	34	11	4
2	654	581	25	48	67	49	16	2
3	689	615	22	52	64	41	19	4
4	684	610	35	39	74	38	29	7
5	550	502	28	20	51	34	15	2
6	678	605	34	39	76	47	27	2
7	724	637	41	46	70	35	33	2
8	547	501	23	23	56	28	26	2
9	681	617	32	32	67	42	24	1
10	664	595	33	36	72	44	26	2
11	630	576	22	32	55	35	18	2
12	638	578	23	37	66	49	16	1
合計 (前年比%)	7730 (94.8)	6951 (95.9)	338 (91.8)	441 (81.2)	767 (80.3)	476 (79.3)	260 (90.6)	31 (45.6)

* 医事課統計は入院中の他科依頼患者を除く。

2009年度外来担当医

曜 日	月	火	水	木	金
初 診	岩佐 柳瀬	篠原	吉田 小竹	小野 丸田 (午後)	高橋和
再 診	山田* 小野 岩佐		柳瀬 吉川*	山田* 岩佐 吉田	
もの忘れ外来 (初診) (午後)				山田 吉田/小野	

* 紹介患者初診含む

(2) 病棟

神経内科病棟は東2階にあり、病床数は20床です。今年（2009年1月～12月）の退院患者の総のべ人数は169例で、2008年の179例を下回りましたが、病棟主治医の人数が1名減ったことを考慮すると病棟医1人あたりではむしろ、担当患者数が増加しており、今年の病棟主治医（坂井先生、古川先生、島先生、小松先生）の頑張りを強調したいと思います。退院患者は以下に示す通りです。神経変性疾患、免疫性神経疾患や感染症等に加え、約2割を脳血管障害が占めており、偏りは少ないように思われます。また、入院予約の患者さんも本年度はほぼ希望される日から2週間前後で入院していただくことができ、予約患者さんからの問い合わせも減りました。この要因は、上記の病棟医4人と渡辺看護師長をはじめとする看護師、ソーシャルワーカーの方々の日々の努力によるものが大きいと思われます。次に、外来主治医の先生方が入院患者の予約をとる際に良く熟考していただいた結果だと思っております。惜しむらくは、大学病院として学会発表や国際誌の論文発表につながるような新しい発見のあった症例が、もう少しあってほしかったと思います。そして、忘れてはならないのは、病床数の関係上、入院が必要な患者を引き受けて下さった国立病院機構金沢医療センター、石川県立中央病院、金沢西病院をはじめとする関連病院の先生方にこの場を借りて御礼申し上げます。

今後は、より一層病棟運営がスムーズに行われ、稼働率がさらに上がるよう、スタッフ一同、全力で取り組んでいきたいと思っております。今後とも良きご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

（病棟医長 小野 賢二郎）

<疾患内訳>

(例数)

血管障害	34
脳梗塞	31
脳出血	2
内頸静脈血栓症	1
感染症・炎症性疾患	6
髄膜炎	2
肥厚性硬膜炎	4
変性疾患	33
運動ニューロン病	7
脊髄小脳変性症	3
パーキンソン病	5
遺伝性痙性対麻痺	2
進行性核上性麻痺	6
皮質基底核変性症	4
多系統萎縮症	5
レビー小体型認知症	1
筋・神経筋接合部疾患	14
重症筋無力症	7
ランバート・イートン筋無力症候群	1
筋ジストロフィー	1
封入体筋炎	1
多発筋炎	1
ミトコンドリア脳筋症	1
その他の筋疾患	2
末梢神経障害	19
家族性アミロイドポリニューロパチー	10
遺伝性運ニューロパチー	1
慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	3
その他の末梢神経障害	5

脱髄性疾患	10
多発性硬化症	9
視神経脊髄炎（抗 AQP4 抗体陽性）	1
てんかん	13
内科・全身性疾患に伴う神経筋疾患	9
サルコイドーシス	1
膠原病	1
糖尿病	1
傍腫瘍症候群	2
全身性エリテマトーデス	1
甲状腺異常	2
成人型シトルリン血症	1
その他	32
精神疾患	4
代謝性脳症	1
不随意運動	3
急性肺炎	1
急性腸炎	2
肩関節周囲炎	1
変形性脊椎症	7
脳表ヘモジデリン沈着症	1
リポジストロフィー	1
骨転移に伴う外転神経麻痺	1
ムコ多糖症	4
平山病	1
全身性無汗症	1
神経スウィート病	1
一酸化炭素中毒後状態	1
水頭症	1
低髄圧症候群	1

計 170例

[3] 症例検討会・各種カンファレンス

(1) 2009 年症例検討会

日付	年齢	性別	題名	疾患名 (疑い例も含む)	主治医
1/6	79	F	ALS の画像診断について	筋萎縮性側索硬化症	赤木、浜口 ^歩 、 岩佐
1/20	84	F	高齢発症のてんかん部分発作に 対して低用量カルバマゼピンに て治療した1例	症候性てんかん	高橋 ^良 、柳瀬
2/3	74	M	緩徐進行性の右下肢運動障害、姿 勢反射障害を来した1例	皮質基底核変性症	室石、柳瀬
2/10	40	M	若年性脳梗塞と脳萎縮を呈した 1例	脳梗塞	赤木、浜口 ^歩 、 岩佐
2/17	67	F	頸部・顔面の不随意運動をきたし 基底核・歯状核の左右対称性 T2 低信号を認めた1例	多系統萎縮症	森永、浜口 ^毅
2/24	75	F	LEMS と傍腫瘍性辺縁系脳炎を合 併した1例	傍腫瘍症候群	野崎、吉田
3/3	24	M	頸椎硬膜肥厚を契機に診断され たムコ多糖症の1例	ムコ多糖症 I 型	浜口 ^歩 、岩佐
3/17	47	F	頭痛・認知機能低下を伴う白質脳 症の1例	多発性硬化症	高橋 ^良 、柳瀬
4/7	57	M	左海綿静脈洞症候群を呈した 1 例	糖尿病性外眼筋麻痺	小松、柳瀬
4/14	47	M	glove and stocking 型と腹部の しめつけ感のを呈した1例	変形性頸椎症	島、吉田
4/21	41	M	多発性海綿状血管腫に脳梗塞を 合併した1例	海綿状血管腫・脳梗塞	坂井、小野
4/28	24	M	頸椎硬膜肥厚を契機に診断され たムコ多糖症 I 型	ムコ多糖症 I 型	古川、岩佐
5/12	59	M	シェーグレン症候群に封入体性 筋炎を合併した1例	封入体筋炎	坂井、小野
5/26	28	M	銅代謝異常と不随意運動を合併 した統合失調症の1例	統合失調症	小松、柳瀬
6/2	50	M	遺伝性運動ニューロパチーにパー キンソニズムを合併した1例	多系統萎縮症・遺伝性 運動ニューロパチー	坂井、小野
6/9	61	M	嘔声を契機に診断された内頸静 脈血栓症の1例	頸静脈血栓症	島、吉田
6/16	32	M	反復言語を伴った CO 中毒が疑わ れた1例	一酸化炭素中毒	飯塚、古川、 岩佐
6/23	58	M	激しい右上肢痛を呈した胸郭出 口症候群と思われる1例	胸郭出口症候群	小松、柳瀬
6/30	41	M	全身性無汗症の1例	全身性無汗症	古田、坂井、 小野
7/7	46	M	若年発症の進行性不随意運動の 1例	不随意運動	島、吉田

日付	年齢	性別	題名	疾患名 (疑い例も含む)	主治医
7/14	71	M	無症候性原発性胆汁性肝硬変に合併した筋炎の1例	多発筋炎	飯塚、古川、岩佐
8/11	38	M	A case of intracranial multiple lesions with hemorrhages and IgE elavation in the blood and CSF	神経スウィート病	小松、柳瀬
9/8	55	F	頸椎症術後に水頭症をきたした1例	水頭症	島、吉田
9/15	37	M	脳出血を伴ったステロイド反応性多発脳症の1例	神経スウィート病	小松、柳瀬
9/29	67	F	臨床的にCBDと考えられた1例	皮質基底核変性症	坂井、小野
10/6	44	F	時期を違えて発症した両側視床梗塞の1例	脳梗塞	古川、岩佐
10/13	70	M	脊髄小脳変性症 16q-ADCA の1例	脊髄小脳変性症 (16q-ADCA)	島、吉田
10/20	62	M	夜間中枢性無呼吸と心筋 MIBG シンチ集積低下を認めた SDS の1例	シャイ・ドレーガー症候群	小松、柳瀬
10/27	18	M	錐体路徴候や感覚障害を認めた cervical flexion myeloptahy の1例	平山病	小野、坂井
11/10	41	M	若年性脳梗塞・脳萎縮を認めた1例	脳梗塞	古川、岩佐
11/17	70	M	抗甲状腺抗体陽性で外眼筋肥厚を伴った1例	甲状腺眼症	島、吉田
11/24	66	M	心筋 MIBG 高度集積低下を認めた1例	進行性核上性麻痺	小松、柳瀬
12/1	73	F	空胞形成を伴いⅡ型呼吸不全を生じたミオパチーの1例	ミオパチー	坂井、小野
12/8	67	M	長期経過した多発筋炎の1例	多発筋炎	古川、岩佐
12/15	60	M	気息性嘔声と吃音を呈したパーキンソン症候群の1例	進行性核上性麻痺	島、吉田
12/22	58	F	治療抵抗性の急性脊髄症の1例	脊髄梗塞	小松、柳瀬

(2) CPC(金沢大学/医王病院/金沢医療センター)

日付	年齢	性別	臨床診断	臨床担当医	病理診断	病理担当医
1/13	69	F	MSA	篠原 (県中)	MSA	石田 (医王)
1/13	65	M	ALS	篠原 (県中)	ALS	石田 (医王)
3/2	86	F	CBD	野崎、駒井 (医王)	PSP	石田 (医王)
3/2	87	M	ALS	小竹 (北陸)、高橋 _和 (医王)	ALS/PSP	石田 (医王)
3/18	51	F	NK/T cell lymphoma	野崎	NK/T cell lymphoma	向 (形態機能病理学)
4/28	81	M	ALS	高橋 _和 (医王)	ALS	石田 (医王)
4/28	74	F	ALS	駒井 (医王)	ALS	石田 (医王)
6/23	68	M	MSA	駒井 (医王)	MSA	石田 (医王)
6/23	52	F	ALS	駒井 (医王)	ALS	坂井
8/25	76	M	PSP	石田 (医王)	PSP/MSA	石田 (医王)
8/25	75	F	CJD	町谷 (富山市民)	CJD	坂井
10/27	75	M	LEMS	森永	LEMS	向 (形態機能病理学)
11/17	66	M	MyD	島	MyD	石田 (医王)
11/17	80	F	PD	町谷 (富山市民)	PSP	坂井
12/8	78	F	DLB	坂尻 (金沢医療センター)	DLB	笠島 (金沢医療センター), 坂井

(3) 生 検

2009年疾患内訳（臨床診断（疑い病名含む））

筋	炎症性ミオパチー（多発筋炎・皮膚筋炎・ウイルス筋炎含む）	9
	ミオパチー	5
	チャージ・ストラウス症候群	1
	シャルコー・マリー・トゥース病Ⅰ型	1
	脊髄性筋萎縮症	1
	ミトコンドリア脳筋症（MELAS）	1
	血管内悪性リンパ腫	1
	サルコイドーシス	1
	合計 20例	
神 経	多発ニューロパチー	1
	チャージ・ストラウス症候群	1
	シャルコー・マリー・トゥース病Ⅰ型	1
	合計 3例	

生検所属内訳

所 属	検体数
金沢大学附属病院 神経内科	7
石川県立中央病院 神経内科	7
福井県立病院 神経内科	4
医王病院 神経内科	2
厚生連高岡病院 神経内科	1
計	21

(4) 2009 年生検カンファレンス

月 日	診 断	所 属	担 当 医
3月17日	炎症性ミオパチー	石川県立中央病院	山口
	肉芽腫形成を伴う炎症性ミオパチー	石川県立中央病院	山口
3月24日	軽度神経原性変化	福井県立病院	濱田
4月 7日	炎症性ミオパチー	福井県立病院	濱田
4月28日	Rimmed vacuole を伴う炎症性ミオパチー	当科	坂井、小野
5月27日	Ragged-red fiber を伴う筋原性変化	石川県立中央病院	篠原
6月30日	壊死再生線維と中心核線維を伴う筋原性変化	当科	小松、柳瀬
	筋原性変化	福井県立病院	高橋良
7月16日	神経原性変化、軸索障害性ニューロパチー	石川県立中央病院	篠原
	脱髄型ニューロパチー	当科	島、吉田
	Rimmed vacuole を伴う炎症性ミオパチー	福井県立病院	室石
7月21日	SDH 陽性線維を伴う炎症性ミオパチー	当科	古川、岩佐
7月28日	Ragged-red fiber を伴う筋原性変化	当科	坂井、小野
	Minimal change	石川県立中央病院	松本
10月13日	Ragged-red fiber を伴う筋原性変化	医王病院	森永
11月10日	慢性のミオパチー変化	医王病院	本崎
	壊死、再生を伴うミオパチー	石川県立中央病院	山口
11月17日	炎症性ミオパチー	石川県立中央病院	山口
12月 1日	肉芽腫形成を伴う慢性筋原性変化	当科	小松、柳瀬
12月 8日	空胞を伴うミオパチー	当科	坂井、小野

(5) 臨床神経セミナー

月1回、主に第3月曜日17時30分から神経内科、脳神経外科、神経精神科の3科合同で、症例検討会を行っています。2009年に神経内科から提示した症例を表に示します。

月 日	症 例	タイトル	主治医
1月19日	66歳女性	TIA 様症状を呈したサルコイドーシスの1例	森永、浜口毅
2月16日	40歳男性	若年性脳梗塞と脳萎縮を呈した1例	浜口歩、岩佐
3月16日	75歳女性	LEMS と傍腫瘍性辺縁系脳炎を合併した1例	野崎、吉田
4月20日	47歳男性	Glove and stocking 型感覚障害と腹部締め付け感を呈した頸椎症の1例	島、吉田
5月25日	41歳男性	多発性海綿状血管腫に脳梗塞を合併した1例	坂井、小野
6月15日	28歳男性	不随意運動を合併し Wilson 病との鑑別を要した統合失調症の1例	小松、柳瀬
7月27日	35歳男性	一酸化炭素中毒後に反復性言語を呈した統合失調症の1例	飯塚、古川、岩佐
9月28日	37歳男性	脳出血を伴ったステロイド反応性多巣性脳症の1例	小松、柳瀬
10月19日	44歳女性	時期を違えて発症した両側視床梗塞の1例	古川、岩佐
11月16日	18歳男性	錐体路徴候や感覚障害を認めた cervical flexion myelopathy の1例	坂井、小野
12月21日	41歳男性	若年性脳梗塞・脳萎縮を認めた1例	古川、岩佐

(6) もの忘れ外来検討会

もの忘れ外来受診患者を中心に検査所見、診断、治療経過観察方針について外来主治医、各検査担当者が集まり検討を行っている。同外来受診者（同外来該当扱い含む）総数は2009年末までで826名となり、うち699名で臨床診断がなされた。その301名（43%）がアルツハイマー型認知症、135名（19%）が軽度認知障害の診断であった。また、なかじまプロジェクト（脳健診や認知症予防介入プログラム）など認知症に関するプロジェクトの報告と方針の検討も行っている。

月（2009年）	検討症例数
1月	8例
2月	9例
3月	7例
4月	6例
5月	7例
6月	9例
7月	5例
8月	2例
9月	5例
10月	8例
11月	5例
12月	16例

(7) 大学院生研究発表会

日付	演者	title
2009/3/24	能登大介	骨髄細胞からの microglia 分化誘導法に関する検討
2009/3/24	高瀬文超	筋無力症における新規自己抗体の探索・同定とその病態関与
2009/3/24	吉川弘毅	神経筋接合部関連分子アグリンのスプライシング・バリエントの同定とタンパク質発現
2009/6/23	琢磨寛孝	抗 DHPR 抗体の病的意義
2009/6/30	中村紗季	胸腺腫合併重症筋無力症における新規自己抗体の探索
2009/7/14	佐藤亜由子	中枢神経受容体に対する自己抗体検出システムの確立
2009/7/21	高崎純一	A β オリゴマーの研究

(8) ニューロサイエンスセミナー

- 第16回ニューロサイエンスセミナー：平成21年10月13日
垣塚 彰：京都大学大学院生命科学研究科・高次生体統御学分野教授
「神経変性疾患における VCP 蛋白質の役割」

[4] 教育活動

(1) 神経系疾患系統講義

- 2009年度 対象：医学部医学科4年生

日付		タイトル	講義担当者
4月10日	総論	Neurology 入門 (1)	山田正仁
4月17日	〃	Neurology 入門 (2)	山田正仁
4月17日	〃	検査 (病理)	石田千穂
4月24日	〃	検査 (神経生理、髄液)	岩佐和夫
4月24日	各論	変性疾患 (錐体外路系疾患・認知症疾患)	山田正仁
5月 1日	〃	神経系感染症, 脱髄	小野賢二郎
5月 8日	〃	変性疾患 (運動ニューロン疾患・脊髄小脳変性症)	吉田光宏
5月15日	〃	脳血管障害の診断と治療 (1)	柳瀬大亮
5月22日	〃	脳血管障害の診断と治療 (2)	柳瀬大亮
5月29日	〃	神経筋接合部, 筋疾患	吉川弘明
7月 3日	〃	末梢神経, 自律神経	岩佐和夫
9月 4日	〃	発作性, 機能的疾患	吉田光宏
9月11日	〃	神経系の代謝性・中毒性・腫瘍性疾患、内科疾患に伴う神経障害	岩佐和夫
10月13日	特別講義	神経変性疾患に共通する発症機序の解明を目指して	垣塚 彰*
11月24日	〃	シナプスの構造、機能と免疫	高守正治**

* : 京都大学教授・本学非常勤講師

** : 本学名誉教授・本学非常勤講師

(2) 診断学実習

(医学部4年生対象)

1 グループあたり計20回の診断学実習が行われ、神経内科はうち4回の神経診断学を担当しました。

- 2009年春・秋学期

総授業数 20回

担当：岩佐和夫、吉田光宏、柳瀬大亮、小野賢二郎

(3) 臨床講義

- 医学部医学科4年生

(2008年10月～2009年3月の9回のうち、2009年分)

日付	症例	タイトル	疾患名	担当
1月9日	29F	物が握れない	再発性脊髄炎（抗アクアポリン4抗体陽性）	山田正仁
1月16日	79F	しゃべりにくさ、飲み込みにくさ	筋萎縮性側索硬化症	山田正仁
1月23日	62F	しびれとふらつき	脳梗塞	山田正仁
1月30日	78M	孫と遊べない	家族性アミロイドポリニューロパチー	岩佐和夫
2月6日	32M	ぼっとする発作、けいれんがある	サルコイドーシス 症候性てんかん	山田正仁

- 医学部医学科4年生

(2009年10月～2010年3月の9回のうち、2009年分)

日付	症例	タイトル	疾患名	担当
9月18日	66M	転倒しやすい患者の介護問題を考える	進行性核上性麻痺	山田正仁
9月25日	71F	洗濯物が干せない	原発性胆汁性肝硬変合併筋炎	岩佐和夫
11月6日	59M	足が突っ張って歩きにくい	遺伝性痙性対麻痺	岩佐和夫
11月27日	30F	眼が・・・眼がー・・・	重症筋無力症	山田正仁

(4) 臨床実習 (BSL)

開始日	終了日	グループ数	学生総数
<2008年度冬学期> 1月26日	3月17日	4	24
<2009年度春学期> 4月6日	7月10日	7	46
<2009年度秋学期> 10月5日	12月15日	7	46

BSL スケジュール (月曜スタート)

曜日	午 前	午 後
月	9:00 ガイダンス	
火	8:00 クリニカルカンファレンス、病棟教授回診	講義
水	金沢医療センター見学	
木	8:00 病棟グループ回診、外来ポリクリ (山田)	
金	8:00 病棟グループ回診、10:00 医王病院見学	学生 CC
月	8:00 病棟グループ回診、外来ポリクリ (岩佐)	
火	8:00 クリニカルカンファレンス、病棟教授回診	教授面接

BSL スケジュール (木曜スタート)

曜日	午 前	午 後
木	9:00 ガイダンス	
金	8:00 病棟グループ回診、10:00 医王病院見学	
月	8:00 病棟グループ回診、外来ポリクリ (岩佐)	
火	8:00 クリニカルカンファレンス、病棟教授回診	講義
水	金沢医療センター見学	
木	8:00 病棟グループ回診、外来ポリクリ (山田)	
金	8:00 病棟グループ回診	学生 CC、教授面接

教育活動は、主に医学部4年生、5年生に対して行っています。

4年生には、系統講義で神経内科の基本的なことを講義し、診断学実習で神経所見の取り方を覚えて頂き、臨床講義で診断・治療までの考え方の訓練を行います。特に、神経内科の臨床講義は難しいことで有名ですが、学生さんも何とかがんばっています。

5年生は主に臨床実習を行います。実習の内容はほとんど昨年度を踏襲していますが、今年度の大きな変更点として、火曜日の18時から行っていたクリニカルカンファレンスを朝の8時スタートにしたことが挙げられます。疲れ切った夕方より朝のフレッシュな頭でdiscussionを行うことが以前より良いと思っていますが、通常の症例提示と教授回診をあわせると火曜午前の行事が長くなりがちで、その点は再考の余地があると思います。また、他施設先生方からお困りの症例に関するカンファレンスご希望がある場合は、医局員も勉強させていただきたく歓迎いたしますので、火曜夕方にも行いたいと思っています。

また、今年度も金沢医療センターや医王病院への学外実習をお願いしましたが、大学とは異なる神経内科診療は学生には非常に新鮮に映る様で、学生には極めて好評でした。学外の実習で主にお世話になっております新田先生、坂尻先生、駒井先生、石田先生には、この場をお借りして深謝申し上げるとともに、今後も引き続きよろしくお願い申し上げます。

6年生の一部が、診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップ）に参加しました。皆熱心に実習参加し、実習期間中に神経学会総会が開催されていた学生は総会出席し、われわれと同様に勉強する機会を得ることができました。今後われわれにとっても、神経学に興味がある学生さんと知り合える良い機会になることを希望しています。

(5) 大学院医学系研究科医科学専攻（修士課程）講義

山田正仁：病理病態学：神経系。（2009年7月3日、10日）

(6) 第5回金沢神経内科アカデミー

金沢大学大学院脳老化・神経病態学では、神経内科の魅力を医学部学生ならびに研修医に知ってもらうために、平成17年より神経内科臨床および基礎研究に実際にふれてもらう機会を作りました。今年も、連休にもかかわらず昨年と同様多数の参加者を迎え有意義な実習が行われました。

— プログラム —

7月18日(土)

- 9:30 参加者医局集合
オリエンテーション
- 10:00 病棟実習 主治医グループに参加し、患者診察や処置の見学
カンファレンスに参加
- 11:00 神経内科診察法、検査または外来実習(コース選択)
- 12:30 ~ lunch time ~
- 13:30 中枢神経 MRI 画像の読み方 講師 古川 裕 先生
- 14:30 認知機能検査概要・見学
- 16:00 講演(1)「神経内科医がアルツハイマー病基礎研究に挑んだ2年
~数多くの失敗を経験して」 講師 小野 賢二郎 先生
- 17:00 講演(2)「神経内科のキャリア形成」 講師 山田 正仁 教授
- 17:30 終了
- 18:30 親睦会

7月19日(日)

- 9:00 医局集合
各研究実習の概要説明・実習(コース選択)
- 12:00 ~ lunch time ~
- 13:00 研究実習続き
- 15:00 終了

第1日目 臨床実習

- A) 神経筋生検 担当:岩佐、坂井、角田
- B) 頸動脈エコー 担当:柳瀬、島

第2日目 研究実習

- A) 神経病理 担当:坂井、小松
- B) 脳画像解析 担当:柳瀬、島

<参加者>

医学類4年 津川 奈緒美

医学類4年 佐々木 功

医学類4年 金 和 炯

医学類4年 小山 資世

医学類4年 草 处 翔

医学類4年 山下 北斗

